

NO.466

平成 29 年度
人権ポスター優秀賞作品



武庫小学校 6年
伊藤 あや乃さん

人権さんだ

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝市民生活部市民文化室人権推進課
(559-5148 FAX 563-7776 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

見つけたら
いじめの火種を
初期消火

ゆりのき台中学校 2年
小松 伶徳さん

平成29年度
三田市人権標語優秀賞作品

子どもたちがからのメッセージ

～子どもたちの作文から、人権について書かれた～

12月3日(日)「人権を考える市民のつどい」を総合文化センター(郷の音ホール)で開催しました。

その中で、市内の小・中・高校生3人による人権作文の発表がありました。日常生活の中でさまざまな経験をし、気づいたことや感じたことなどを、純粋な感覚でとらえたものばかりです。子どもたちのまつすぐな思いは、みなさんにどのようなメッセージとして届くでしょうか。

「私の大切なもの」

狭間小学校 6年 田村 文

私は、これまでとても貴重な体験をしてきました。その一つは、友達関係です。私は、この6年生になってから一人のクラスメイトと何度もけんかをした問題がありました。そんな時に私の幼稚園以来の友達がアドバイスやほめしをしてくれたんです。その時、私はこういうことが「やさしさ」というものなんだと初めて気づきました。その「やさしさ」とは、自分がまぎこまれてしまいかもしれないのに、それでも困っていることに少しでも関わろうとしたり、いけないことは、素直に伝えることだと思わなければならない。その友達には素直に伝えていました。それにその友達は素直に伝えてくれましたが、相手が傷つくことは全く言っていませんでした。

ある時、その友達がクラスメイトの一人とけんかをしてしまいました。けんかの原因はともささいなことでした。

た。その時私には、友達がしてくれたようなアドバイスやほめまことに勇気が出なくて、二人の間に入ることはできませんでした。でも、私は二人がけんかしてはなればなれになっていく時、二人の困っていることを聞いて相談にのりました。一人の相談を聞いていた時にもう一人の人が聞いていたら、少し傷つくことを言っていたかもしれない。少し傷つくことを言っていたかもしれない。少し傷ついてしまうことも言ってしまうかもしれないけれど、全部否定しながら聞くより、まちがつていることは伝えるけれど、少しは同感して、相手の気持ちもやわらぐと思うんです。私にとってアドバイスをしたりはげましたりすることは難しいけれど、仲直りに近づけることはできると思います。私にとって大切なものは、ほめてくれる友達は、大切な宝物です。

そして、だれもが持っている、自分にとって大きな一番の宝物があります。それは「家族」です。私は、少し前になりましたが、「家族なんてきらいだ!」と思っていたことがあります。しかし、そんなある日、私が病気で入院した時、家族みんなが心配してくれました。病室では、ベッドにじっとしているだけで、ゆううつだったのですが、家族がはげみになり、その時、「家族ってこ

んなにすてきで温かいものだったんだ」と気づきました。

私はもう6年生です。あと約4か月で卒業します。これから全校生に何か残さなければなりません。私は、今日発表したことを残していきたいと思えます。「やさしさ」「思いやり」「家族や友達の存在」「こんなすてきなことに私は気づかせてもらいました。今後、この3つのことをしっかりと心にきざみ、大切にしていきたいと思っています。

「トリセツ」(取扱説明書の略)

長坂中学校 3年 前川 陽向汰

私は小学校1年生の時から、特別支援学級に在籍しています。「生れた時、本当に小さくて、一か月も入院したの。身体も弱かった。保育園でも、先生にずっと抱っこされた。小学校に上がった時も、まだ走ったり、椅子に座ったり、鉛筆を持ったりが上手にできなかったの。それで、特別支援学級にしたんだよ」と母に教えてもらいました。自分では全く覚えていなくて、少し驚きました。でも、特別支援学級でしたら勉強を教えてもらえたことはよかったです。

小学3年生まで担任だった先生からは、毎日たくさん宿題が出ました。母も本当に厳しく、宿題が終わるまで許してくれませんでした。先生と母に、「この時期に頑張ることをしないと、何もできなくなるから」と、毎日何時間も勉強をさせられました。とてもしんどかったけれど、今では勉強するのが

当然になりました。

中学の勉強は本当に難しいです。

それでも、目標は高校に入学し、卒業すること。その目標に向けて頑張っています。授業も、高校入試のために普通教室で受けています。小学校時代は個別授業だったので、黒板をノートに写すのも、中学に入ってから練習でした。先生がクラス全員に話す言葉を聞き取るのも難しかったです。でも3年生になった今は、それらも普通にできるようになりました。中学3年間で成長したと思います。

私は知的な障害があります。だから覚えることが苦手です。覚えても、すぐに忘れます。だから、何度も何度も繰り返して覚えます。難しいことを考えるのも苦手です。想像するのも苦手です。怖いものも苦手です。動物も、虫も、雷も、怒鳴り声も怖い。どうなるかわからないから怖いのです。運動も苦手です。みんなに追いつけないからです。手先も不器用で、切る、描く、折るなどもすべて苦手です。丁寧にしているつもりでも、いつも叱られます。

家庭科の授業で、「幼稚園児の感覚を知ろう」という授業をしました。軍手を履いて、ビーズ通しをしました。上手くできませんでした。私の手先、足先の感覚もそういう感じなんだよ、と母が言いました。みんなと同じようにできないのは、軍手をつけて作業しているから、長靴を履いて運動しているからだと思います。

私はよく、注意されます。「言葉遣いが悪い」「力加減ができない」「周りを見ない」「丁寧にしなさい」などです。力加減が分からない、丁寧にできないというのは、感覚的に難しいからです。言葉遣いについては、自覚があります。で



【田村 文さん】



【前川 陽向汰さん】